

やすらぎ

第31号

平成29年1月1日発行

岐阜市民病院 代表電話 058-251-1101 ホームページ <http://gmhosp.jp/>



理念

心にひびく医療の実践

基本方針

- 患者さんの権利を尊重し、心温まる医療を行います。
- 安全で信頼されるチーム医療を行います。
- 地域の医療機関と連携し、患者さん中心の継続した医療を行います。
- 地域の中核病院として、最新かつ高度な医療を提供できるよう努めます。
- 職員が生き生きと働くことができる環境づくりに努めます。



明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い致します。

最近、二ユース等で高齢ドライバーの高速道路の逆走や、駐車場等でのブレーキとアクセルの踏み間違えによる事故が大きく報じられています。その主な原因は加齢による注意力の低下と言われています。しかし、なかには認知症が関連するものもあり、高齢化に伴い今後さらに認知症が疑われる方の増加が予想されることから、早期の診断や相談により、車の運転に関して本人やその家族に理解・納得してもらう体制づくりや対策が重要となってきています。

昨年七月に県が策定した「地域医療構想」にも、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、地域全体で治し、支える「地域完結型」の医療・介護のシステムづくり（地域包括ケアシステムの構築）が盛り込まれており、その中の一つとして認知症の予防、早期発見・早期対応のための体制や、本人・家族への支援体制の構築が必要とされています。

このように何が必要とされているか、求められているかは地域によって

様々であります。そのため今回、平成二十年以来、八年ぶりに市民の皆さん及び地域の医療機関（病院・診療所）を対象にアンケートを行いました。

市民の皆さんからの当病院への要望として高かったものは、「高度医療機器を導入し、診断機能を充実」、「専門的な診療科、特殊な診療科の整備」、「救急医療体制の充実」、「がん診療の充実」があげられ、いずれも四割近くの方が望まれていました。特に「専門的な診療科、特殊な診療科の整備」は、平成二十年には約三割であったのに対し、今回は約四割と一割以上増加しており、特殊な病気であっても身近な病院で専門的な治療を受けたい、というニーズの高まりを伺うことができました。

また、医療機関からの要望としては、「救急医療体制の充実」が最も高く、診療所と病院・有床診療所のどちらでも約七割と、平成二十年の五割から大きく増加しており、夜間等の急変時に対応できる体制のさらなる充実が強く望まれている結果となりました。

今回のアンケート結果を踏まえ、救急・災害医療、高度医療、専門医療の提供など、今後も、市民の皆さん、かかりつけの先生方、地域医療機関のニーズを把握し、それらに答えられるよう努めてまいります。

PET-CT検査が始まりました

中央放射線部

当病院では最新鋭のPET-CT装置を導入し、平成二十八年十月三日より検査を開始いたしました。

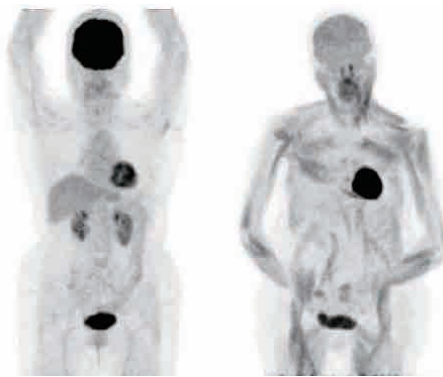


最新鋭のPET-CT装置

PET-CT検査は身体に放射線(陽電子)を出す薬剤を静脈注射して、全身を測定し薬剤の分布を画像化します。薬剤はブドウ糖とほぼ同等の物質で、がんや炎症部位に集まる性質があります。がん診療におけるPET-CT検査は、がんの位置、広がり、転移の有無、再発の有無の診断と非常に重要なものになっています。しかし、診療に役立つ画像を撮影するためには、検査を受けられる患者さんに必ず守っていただきたい

ことがあります。

①六時間前から絶食です。水やお茶は飲んでいただいて結構ですが、糖分を含んだもの(アメ、ガム、スポーツドリンク、味付きの水、コーヒーなど)はおやめください。検査前に食事をされますと図・右のように全身の筋肉に薬剤が集まり、病巣発見の妨げとなります。

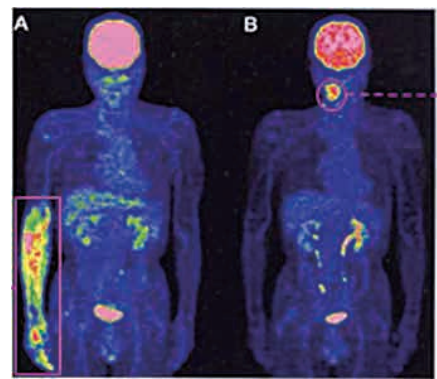


通常例

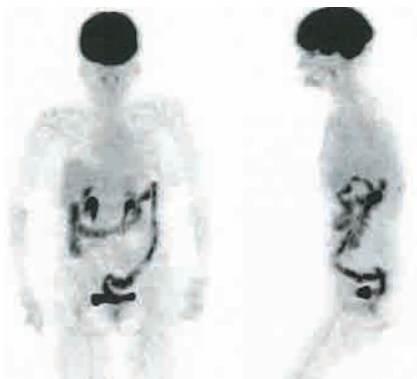
絶食不良例

②検査前日から運動や肉体的労働の禁止です。図のように筋肉を多く使った部位に薬剤が過剰に集まり、肝心の病巣に薬剤が集まらないことがあります。

③検査前日から下剤の使用は禁止です。下剤の作用で薬剤が腸に過剰に集まり、病巣発見の妨げとなります。糖尿病の薬も検査前は原則禁止です。それ以外の薬は通常どおり内服してください。



左：前日にテニス 右：再検査で頸部に異常集積



下剤の使用

最後にPET-CT検査で使用する薬剤は短い時間で効果が減少していきます。予約時間に遅れますと最悪の場合、検査ができないことがあります。必ず予約時間とおりの来院をお願いします。PET-CT検査の詳しい情報は病院ホームページをご覧ください。

心不全ってどんな病気？

慢性心不全看護認定看護師 鈴木 厚子

「足がむくむ」といっことは、誰でもよくある症状です。今日は一日、立ち仕事をしていたからかと思いますが、こういった誰にでもある症状が心不全の徴候であり、病状の目安になります。

現在日本では、高齢化が進むと共に心臓病患者も増加し、死亡原因の第二位となっています。十月に亡くなられた昭和天皇の弟である三笠宮さまの死因も心不全でした。心不全は心臓病の最終形態であるといわれていますが、心臓病を患っていないくても、加齢により心臓の機能が低下し発症する場合もあります。

心不全になった場合、良くなった悪くなったりを繰り返し、入院を繰り返します。病状を悪化させないためには、水分・塩分や活動等、生活上で様々な制限が必要となるため、元気な頃と同じような生活が困難になる場合があります。しかし、患者さんが自分で体重測定や足のむくみの観察をし、生活の見直しをすることで、悪化を最小限にとどめることが可能となります。当病院では、入院患者さんに対して、心臓病を抱えながら自宅での生活を送るため、患者さん

の思いを聴きながらスタッフ間の連携を図り考えています。

心臓の病気で思い通りの生活ができない方や不安のある方は、中央診療棟三階、慢性心不全看護認定看護師鈴木まで気軽に声をかけてください。また、当病院では認定看護師が専門性に合わせた看護外来を開設しておりますので、受診を希望される方は主治医・看護師にお問い合わせください。



「人工股関節」について

人工関節センター長 大塚 博巳

こんにちは、人工関節センター長の大塚博巳です。赴任して一年半が過ぎましたが、岐阜の皆様は温かく迎えて頂き感謝しております。これからも皆様の期待にお応えできるよう、努力いたしますのでよろしくお願い申し上げます。

今回のテーマは「人工股関節」についてです。

「人工股関節」とは何でしょうかと

それは、金属、プラスチック、セラミックなどで作られています。種々な疾患で「痛み」や「動かさず」「など問題のある方々の股関節と置き換えること」で、痛みなく、動きのある股関節となり、普通の生活に近づけるものです。

人工股関節の固定法は、骨セメントを使用するものとし、当病院では骨セメントを使用する方法です。

股関節に問題のある方々は、歩くときもまた歩幅が狭く力が入りにくいため、「この痛みから逃れたい」、「もつ痛いはいや」、「もつ二度痛みなく歩きたい」、「モテルのように歩きたい」、「人目を気にせず歩きたい」等と切実な悩みをお持ちです。そして、「なぜ、私だけがこうなの」と精神的に落ち込んだり、または笑顔を忘れ、怒りっぽくなったりします。このような方の股関節を人工股関節と置き換える手術は、通常、痛みがとれ、動きがあり、力が入りやすく、そして、笑顔で心豊かに普通に近い生活へ一変できる一つの解決法であります。しかし、体内に埋め込む人工股関節の手術は、可能であれば一生に一度でありたいものです。

「人工股関節」の手術はいつ受けたらよいのでしょうか。股関節の変形があり、歩行や動きの痛みにより日常生活が脅かされ、ご自身が手術を受けようと思つた時が良いでしょう。それは十年後でも

良いのですが、体調管理は必要です。どんな人工股関節の手術でも心臓や肺に負担がかかり、さらには手術の合併症としてエコノミークラス症候群もあるため、体調に問題がある場合には、手術が出来るかどうかの判断をするため、内科や麻酔科と連絡を密にしております。

「人工股関節」は、毎年のように新しいものが作られるため、驚くほどたくさん種類があります。それが良いかは、長期経過した結果がないとわからないため、すでに二十年以上の超長期の使用に問題なく良好な結果のある「人工股関節」を使用することをお勧めします。

私は、一九九七年〜九八年に英国エクセター市にあるプリンス・エリザベス整形外科センターに留学しました(前回号で報告)。近年、その病院で一九七〇年に開発された骨セメントを用いるエクセター人工股関節の術後三十年の結果が報告されました。「エクセター人工股関節を受けた患者さんの九十三%が、術後三十年を過ぎても満足に使用している」という素晴らしい内容のもので、さらに、それを改良した人工股関節の術後十三年で二〇〇%という非常に良好な結果も報告されております。

しかし、人工股関節は靴や車と同様の人工物のため、長年使用するとゆるんだり痛みたりすることがありますので、最低年一回の定期検査が必要です。これ

は、自覚症状として出てくると早期の問題点の発見ができ、その状況の説明とこれからの日常生活指導ができるからです。

人工股関節の手術を受ける方々が超長期的に満足して頂くためには、「超長期の良好な結果が既に明らかである人工股関節」を「その手術手技に精通した整形外科医が行うこと」が一番です。当病院ではエクセター人工股関節を使用し、その手術手技にも精通していますので、超長期の良好な結果が期待できると考えております。



大英博物館に展示されているエクセター人工股関節
(友人である宮崎広士さんから提供)



病院情報システムの更新について

当病院では病院情報システムの中核となる電子カルテシステムを平成二十二年に導入しましたが、稼働後七年近くが経過し、機器の老朽化やソフトウェアの陳腐化が顕著になってきました。このため、よりスピーディで安定したシステムを構築し、安全で効率的な医療の提供と、更なる医療サービスの向上を目標に、他の部門システムを含めた病院情報システム全体を最適化しようと準備を進め、平成二十九年一月一日より、新しい病院情報システムを稼働させる運びとなりました。

◆ 病院情報システムとは？

病院内には、診察室、病棟、手術室など診療を行っている部門以外に、薬剤部、臨床検査部、放射線部、リハビリ部、栄養科、医事課など様々な部門が連携して患者さんの診療を補助しています。こうした患者さんの診療情報などを電子化し、コンピュータで管理するシステムのことを総称して病院情報システムと呼んでいます。

また、電子化による欠点を補うために、厚生労働省より医療情報システムの安全管理に関するガイドラインが示

されており、その中で電子保存の三原則として真正性（改ざん防止対策がされている）、見読性（いつでも情報が閲覧できる）、保存性（情報の保存対策がされている）の確保など厳格な管理・運用が求められています。今回の更新でもこのガイドラインに沿ったシステム構築を進めています。

◆ 患者さんへのお願い

新しい病院情報システム稼働後、操作や運用に慣れるまでの間は、多少の混乱や診察時間・待ち時間が長くなること予想されます。患者さんにはご不便やご迷惑をお掛けする場合がありますが、何卒ご理解とご協力をお願いいたします。

平成29年2月26日（日）に「ご当地カフェ」を開催します

「ご当地カフェ」とは、がん患者さんと関わりを持つ全ての方を対象に、がんになったあとの暮らしについて学び、語り合う学習イベントです。がんは治すことが可能になってきた病気で、抗がん剤治療などは外来でも行えるようになりました。一方で、若くしてがんを患う方が増え、治療しながら仕事を続けることの大切さが取り上げられるようになりました。このイベントでは、国立がん研究センターの高橋 都先生をはじめ、患者会で活動されている方、岐阜県のがん対策担当者からの講演のほか、岐阜の地でがん患者さんを支援している様々な方から活動紹介を行った後、参加者全員が小グループに分かれて、お茶を飲みながらそれぞれが抱えている思いをみんなで話し合います。

～がんになっても自分らしくあるために～「就労と治療の両立」

ご当地カフェ in 岐阜

開催日：2 / 26（日） 13：30～16：30
場 所：ぎふメディアコスモス かんがえるスタジオ
対 象：すべての方 参加費無料 定員 50名（事前申し込み）

氏名、職業、電話番号をそえてFAXにて2月12日までにお申し込みください。詳しくは岐阜市民病院ホームページ、病院内のチラシをご覧ください。参加ご希望の方、ご不明な点のお尋ねは、がん相談支援センター（代表：058-251-1101、FAX：058-251-9927）までお気軽にお問合せください。

編集後記

読者のみなさん「やすらぎ」第31号が完成しました。本号では、PET-CT検査について、慢性心不全看護認定看護師の紹介、人工股関節について、病院情報システムの更新について、ご当地カフェ開催について掲載いたしました。

その他に、現在、岐阜商工会議所発行の「月報」に当院の医師が健康情報を毎月提供しております。機会がありましたら、一度ご覧ください。

編集部一同



外来診療のご案内

- 診療科目・・・内科、糖尿病・内分泌内科、精神科、神経内科、呼吸器・腫瘍内科、消化器内科、血液内科、循環器内科、腎臓内科、小児科、外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、頭頸部外科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理診断科、臨床検査科、歯科、歯科口腔外科

●休診日

土・日・祝日と12月29日～1月3日
*詳細はホームページでも紹介しています。
市民病院ホームページ <http://gmhosp.jp/>

